

## 春号

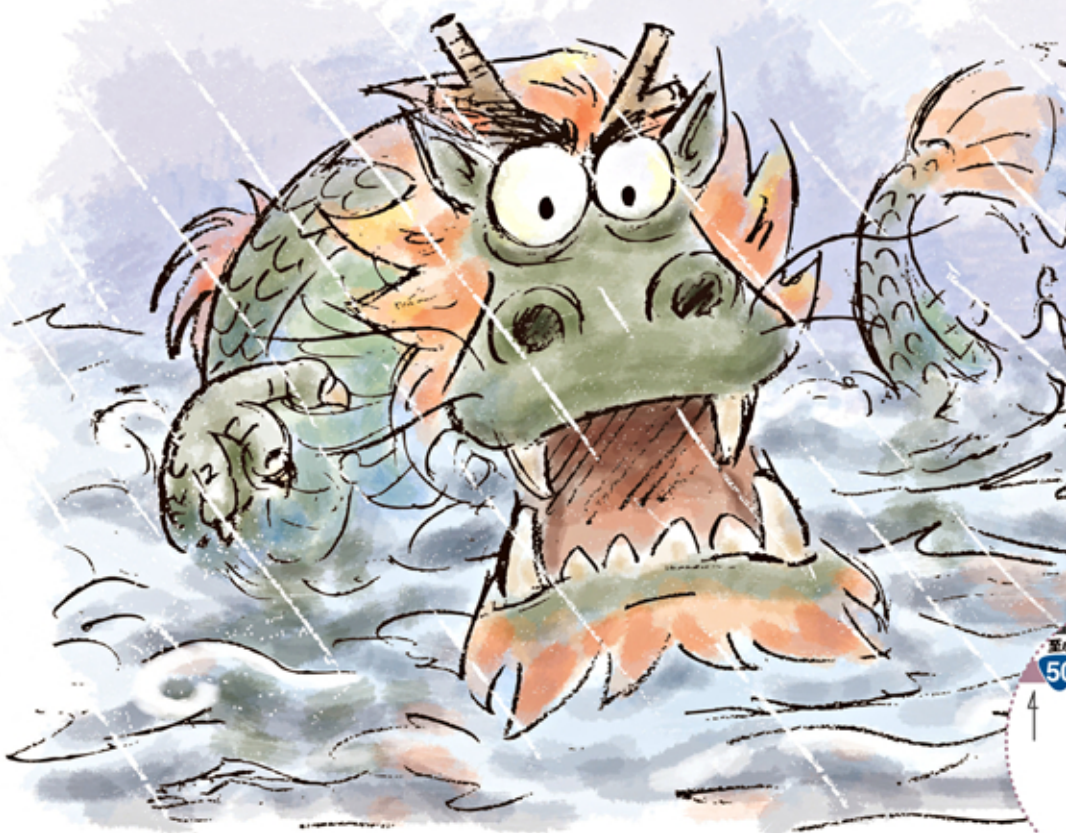


民話ゆき

## 旧結城寺の由来

文・結城市教育委員会  
挿絵・佐々木明

## 民話を楽しくもっ



このお話は、今からおよそ  
一三〇〇年も昔のお話です。

その頃、大雨などで川の水があふれ、まわりの田や畑一面をおおってしまい、水びたしになってしまふことがたびたびありました。

すると、人々は、みんな川の中に悪い龍りゅうがいてあばれるのだと考えていたのです。

鬼怒川きぬがわのへりにあった山川の部落野畑のぼた（現在の上山川地方）でも、毎年、大雨などで水があふれると鬼怒川をながめては、この川にも悪い龍が住みついているにちがいないと考えるようになりました。

川の、水があふれると村人たちの苦しきようといったら、悪い病気がやはり大切な作物は流されるわで、それこそ大変なものだったのです。

野畑という土地の名も実は毎年くしかえされるこう水によって畑が野はらのようになってしまふところからつけられたものなのです。

そんなある日、ひとりの老人が出て来ていうには、今、野州（いまの栃木県）には、大変偉いおぼうさんがいて、薬師寺というお寺を建て関東地方の人々によいおこないを教えているという事です。このおぼうさんならきくと鬼怒川の悪い龍もしずめてくれるにちがいない。  
「わたしが行ってお願いしてみよう。」  
というのです。

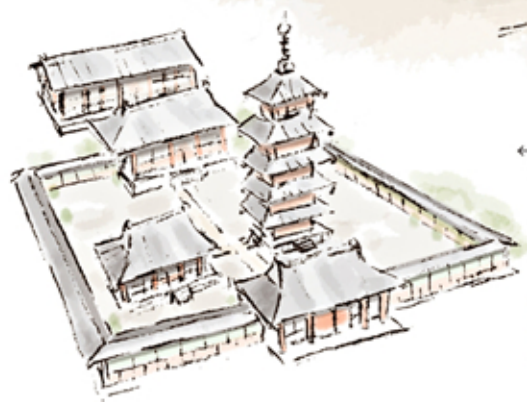
村人たちは、喜んでさっそくこの老人にお願いして、そのおぼうさんをつれてきてもらつことにしました。このおぼうさんこそ、実は、奈良の唐招提寺というりっぱなお寺を建てた鑑真という有名なおぼうさんの第一の弟子といわれる祚蓮律師というおぼうさんだったので、祚蓮は野畑にやってくると、堤防の上に、祭壇を作り一心にお祈りしました。



すると、どうでしょう。お祈りがきいたのかどうか、その後、鬼怒川の水は、あふれることもなくなり、村人たちを苦しめることはなくなったというのです。  
村人たちは、それはそれは、喜んで祚蓮さんのために小さなお堂を建てておまつりました。



←結城廃寺想像図  
奈良時代のはじめに建てられ、室町時代の中ごろまで約700年間続いた寺院。



結城廃寺跡の発掘調査では1万点以上の瓦片が出土しました。

しゃりこう どうしんそ いしぶた  
舍利孔(塔心礎)の石蓋(文様に色鮮やかな蓮の花が描かれた石蓋は日本初出土)や  
たるさきがわら ほうじょうじ  
種先瓦(東日本で初出土)、また北成寺と書かれた瓦も出土しました。

それにより奈良時代には北成寺と呼ばれていたことが判りました。

さらに、結城廃寺跡が平将門の乱を記した『将門記』にてでくる「北成寺」であることも確認されました。

※結城市教育委員会発行パンフレットより

このお堂が鎌倉という時代になって、日本の三戒壇かいたん(おぼうさんの学校)の一つにかえられた旧結城寺といわれている大金釧宝寺しんぼうじというお寺のはじまりなのです。

いちじは、二千人のおぼうさんが、入りしていたといわれるこのお寺も、室町の時代の嘉吉元年(一四四一年)の結城合戦といわれる戦いで焼きはらわれてしまいました。今でも、このふきんの畑から、その時代のとても厚い布目の瓦のかげらが見つかり、その頃のことを考えさせてくれます。

おしまい